



# おじさんズ通信

2023年5月号 (No.30)

発行元：登別市新生町  
桃柿通 緑風舎  
発行者：おじさんズ3号



発行は毎月15日頃。バックナンバーは「おじさんズ」のホームページでどうぞ

## 「30号」という名の一里塚

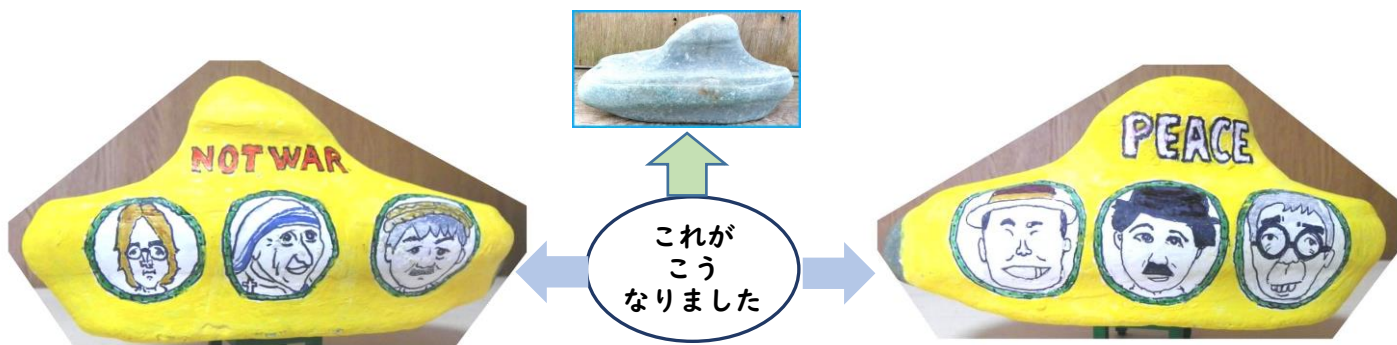
人生には笑いと遊びが必要だ、そして時々、勉強もー。

てなわけで2020年12月に始めた、わずかA4版面印刷の「おじさんズ通信」も、“カストリ雑誌”の危険水域を乗り越え、思えば遠くに来たような、そうでもないような30号の一里塚に到着しました。

継続の力を生み出すミナモトは、読んでくださる皆様方の感想や激励です。30号を機に、一区切りの幕を下ろそうかとも考えましたが、朝起きて、窓から差し込むまばゆい光に目を細めるとき、「行けるところまで行こう」との活力が……そう、チャップリンが不幸を嘆き悲しむ女優に夜の窓辺でささやくあの言葉、「朝になれば小鳥も歌うさ」という、あのセリフが浮かんできます。

## イエローサブマリンで新たな船出

気持ちも新たに、30号の冒頭写真は、先月号でも予告したストーンアートのお出ましです。



富浦の海岸で見つけた長さ約20センチ重さ1.3Kgの潜水艦型ストーン。残念ながら、種類は分かりませんが、すぐに浮かんだデザインはビートルズの「イエローサブマリン」。ゆえに最初の乗組員は、コーラス部分以外の歌詞を書いたジョン・レノンです。残る五人、分かるかな～。

画材といえば万年筆と、眠っていたポスター・カラーにマジックインクなどで費用はゼロ。アートと呼ぶには、少々雑なところもありますが、適当な架台・船台をつくって、市立図書館の「ちょこっとギャラリー」に出展しようと、心あそばせております。

\*\*\*\*\*

## 「実を以て報いたい」とは

アフガニスタンとパキスタンで35年にわたり、病（やまい）や戦乱、そして干ばつに苦しむ人々に寄り添いながら多くの命を救い、生きる手助けをしてきた医師・中村哲さん。残念ながら2019年12月、アフガニスタン東部で何者かの凶弾に命を奪われました。

その中村さんの足跡を伝えるドキュメント映画「荒野に希望の灯をともし～医師・中村哲 命の軌跡35年～」を観てきました。医療現場での苦闘もさることながら、大干ばつによる農業の崩壊、飢餓による多くの人々の死を目の当たりにして、クナル大河からの用水路建設を決意。7年の歳月をかけ、自らも重機を操作して、ついに25Kmの水路を完成させ、荒れ地を食料を生み出す緑の大地に変貌させ、いまも65万人のいのちを支えているといえます。

映画の最後で中村さんが放った言葉、「実（じつ）を以て報いたい」なるフレーズが胸に刻みこまれました。調べると、その前に「不条理を恨まず」がつくようです。「あいつが悪い、こいつがいけない、と文句を言わず、真に人の為になる実を産み出す努力を」が私流の解釈。単純なようで奥の深い箴言です。

**荒野に希望の灯をともし**  
～医師・中村哲 命の軌跡35年～  
2023 **4月30日(日)** 室蘭市民  
① 10:30～12:00 (開場 10:00)  
② 13:30～15:00 (開場 13:00)



